

いて顕著にみられるが、全般的には農業的色彩の強い地域だといえよう。ことに葛蒲においてその傾向が強い。

アメリカの都市分布 産業面からの考察

表 朝 子

この題目を選んだ動機は、アメリカという国への興味である。たしかに、アメリカについての知識は、一般に普及しているといえるが、その多くは散文的であり、また、フィクションにもとづいた類推であったりして客観性が乏しいもののように思える。そこで、何かしら確実な理解を、とってこの論文にとり組んだ。内容の概略は以下の通りである。

まず、序論では方法論として、都市と産業との関連を考察するにあたって企業分布調査をその手段とすること、また、資料として何を使うかについて述べた。第1章では主な業種がどの都市に分布しているか、またその地域的かたより（東部か、五大湖沿岸かなど）はどうかについて考察した。

さらに第2章では、企業数・売上高が集中している都市について考察を行った。この章の冒頭の部分では、上述の意味での「大都市」と人口との関係について調べ、人口の順位と売上高の順位との間にはやや低い相関関係がある、と結論づけられた。続く部分では、売上高の特に多い都市について、業種やその売上高の構成について調べた。そのうち、売上高合計首位の New York は、その構成業種数や企業数においても抜群であり、売上高合計は多いが、企業数や特に構成業種の著しく少ない Detroit とははっきりした対照を示している。

さて、本論文のねらいはアメリカの都市についての理解、特に産業面からのそれであったが、作業を進めていくうちに方法が不適切であることが明らかになってきたために、結論の部分は「結論に代えて」とし、その方法上の誤りを検討するような内容となってしまった。方法上の誤りとはすなわち、企業本社を調査対象としたことである。ひとくちに「産業」といっても、ここで扱ったものは企業本社のみであるため、産業が都市やそれを含む地域の経済活動にどのような役割を果たしているか、という、この論文の実質的な目標にとっての手段としてはひどく迂遠なものとなってしまった。つまり、企業本社の分布のみを調べたのでは、原材料・商品・労働力などを媒介とした、

また行政的制度を通じての地域との結合についての考察は不可能なのである。

当初設定した目標にとっては、このような悲観的な結論しか得られなかったが、企業本社といった、ごく限定された意味しか持たない対象から経済地理学的な結論を性急に引き出すのは無理であるといえるので、この論文の意味を強いていうならば、資料から引き出された結論というよりは、資料そのもの（売上高や業種に従って分類した表）にある、ということになるようである。

世界地名大事典 全8巻 完結迫る

渡辺 光・木内信蔵 1巻 ヨーロッパ・ソ連I
 山口憲一郎・式 正英 2巻 ヨーロッパ・ソ連II
 正井泰夫・竹内啓一 3巻 ヨーロッパ・ソ連III
 編集 4巻 アメリカ・オセアニアI
 5巻 アメリカ・オセアニアII
 6巻 アジア・アフリカI
 7巻 アジア・アフリカII(3月刊)
 8巻 アジア・アフリカIII(4月刊)

好評
発売中

各巻菊判 価4000円
 全巻一揃価32000円

日本図誌大系

—全12巻・好評刊行中—
 山口憲一郎・佐藤 侑・沢田 清
 清水 靖夫・中島義一 編集
 —既刊好評発売中—

関 東 I (東京・神奈川・埼玉) 価6500円
 関 東 II (千葉・茨城・栃木・群馬) 価5800円
 近 畿 I (大阪・兵庫・和歌山) 価6500円
 近 畿 II (三重・滋賀・京都・奈良) 価6500円
 中 部 II (長野・新潟・富山・石川・福井) 5月刊

〈以下続刊〉 中 部 I / 中国 / 四国
 各巻A4判 九州I II / 北海道・東北I II

世界地理 全17巻 刊行中

渡辺 光・福井英一郎 最新刊7巻 日 本II 価4800円
 織田武雄・木内信蔵 一既刊好評発売中—
 編集 3巻 東南アジア 価3500円
 11巻 オセアニア 価3500円
 16巻 日 本I 価3800円
 —以下続刊—
 6巻 ヨーロッパI (8月刊)
 7巻 ヨーロッパII (9月刊)
 8巻 ヨーロッパIII (6月刊)

〈各巻 菊判〉

現代地理学シリーズ

能 登志雄著 湿 潤 熱 帯 価1500円
 井関弘太郎著 三 角 州 価2400円
 藪内 芳彦著 島 —その社会地理— 価2400円

東京都新宿区新小川町 朝倉書店
 振替口座 東京 8673